

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は持ち直ししている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

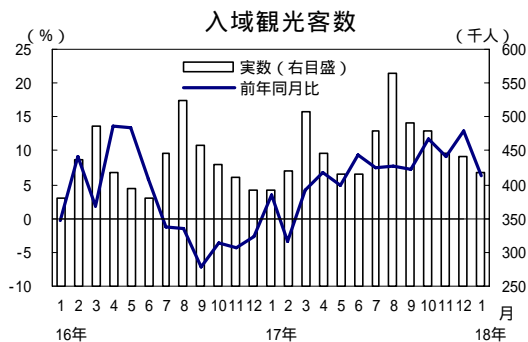
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 11 月）	今回（平成 18 年 2 月）	
観光	増加	堅調に増加	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	
住宅建設	増加	減少	

### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、10 月は、航空路線の増便や使用機材の大型化による提供座席数の増加などから前年を上回った。11 月は、前年に台風や地震等の自然災害によって大きく旅行マインドが落ち込んだことの反動増や、修学旅行生の増加などから前年を上回った。12 月は、温暖な沖縄への旅行需要が高まったことや、新規航空路線の就航などから前年を上回った。1 月は、使用機材の大型化や、離島直行便の輸送実績が好調だったことなどから前年を上回った。なお、10、11、12、1 月は過去最高を記録し、引き続き高い水準で推移している。10～12 月期における主要ホテルの客室稼働率については、入域観光客数の増加を背景に、リゾートホテル、那覇市内のホテルともに前年を上回った。



#### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
入域観光客数	1,320	1,278	1,534	1,368
(前年比)	1.4	6.9	7.5	11.3
ホテル稼働率(前年差)	3.4	2.0	2.7	5.8

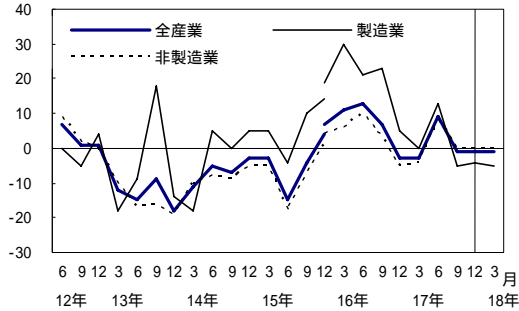
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

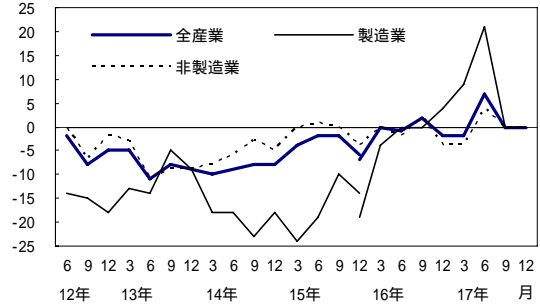
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



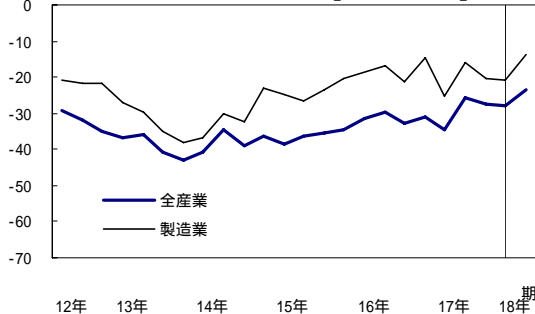
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。  
九州地区のD I。

#### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「大口ユーザーの契約内容変更に伴う動きはあるが、販売量の純増には至らない(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

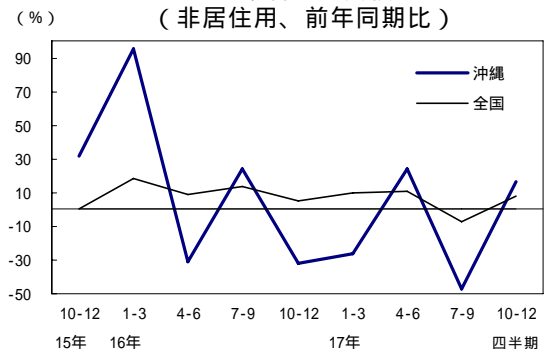
企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績	17年度計画
全産業	17.6	17.4(8.7)
製造業	9.7	31.2(4.2)
非製造業	18.5	22.4(9.5)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は持ち直している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

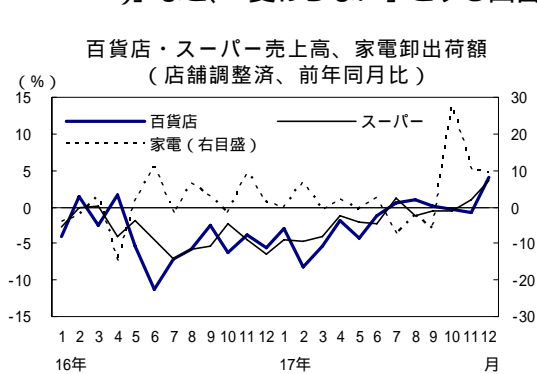
百貨店は、10月は、物産展等の開催により食料品が好調だったものの、衣料品が不調だったことから、前年を下回った。11月は、オーダーメイドスーツセール等の催事の開催により、紳士服を中心に衣料品は好調であったが、食料品が振るわず、前年を下回った。12月は、寒波の影響から冬物衣料の動きが非常に良かったことや、食料品、雑貨も好調だったことから、全体では2か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、寒波の影響から冬物衣料や暖房器具が好調だったことから前年を上回った。

家電は、大型量販店が新規出店し、それに伴い業界各社がセールを活性化させたことで、薄型液晶テレビや洗濯機等の売行きが好調だったことから前年を大きく上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「単価下落の要因の1つに低価格路線がある。例えば発泡酒に続く第3のビールのように、買いやすくなったからといって今までビールを1本購入していた人が2本購入することはほとんど無い。販売数は変わらなくても単価が下がるのでトータルの売上は低迷する(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



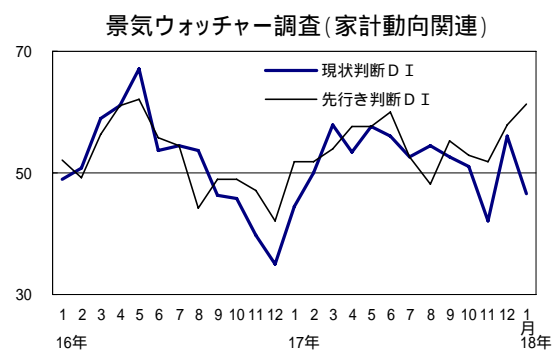
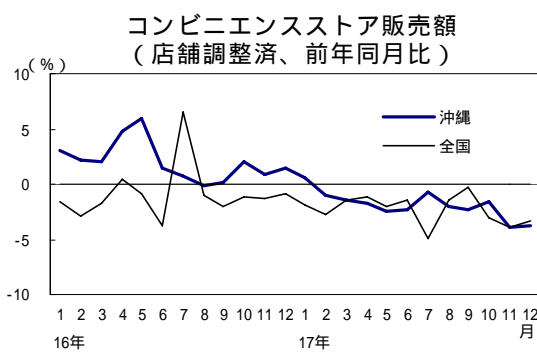
(前年同期比、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
百貨店	5.5	2.5	0.6	1.4
スーパー	4.4	1.9	0.2	3.1
家電卸出荷額	0.2	1.2	5.7	15.1
コンビニ	0.6	2.2	1.9	3.1
景気ウォッチャー	50.8	55.7	53.3	49.7

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

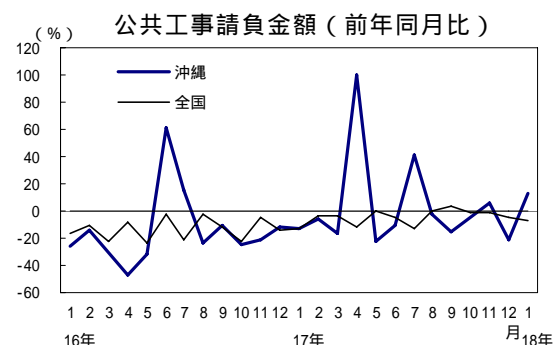
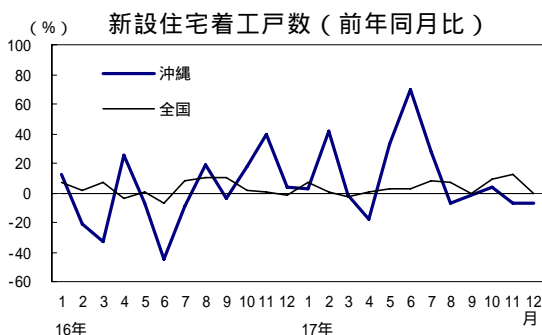
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少している。

分譲、貸家、持家、給与すべてで前年を下回ったことから減少している。

### (3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

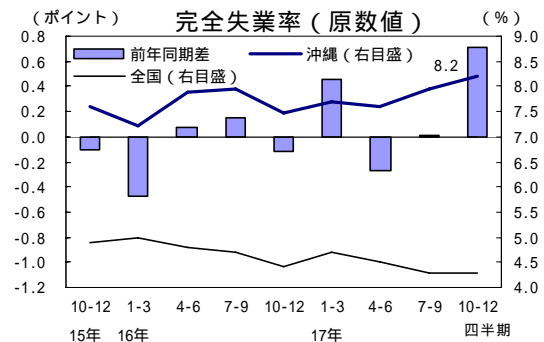
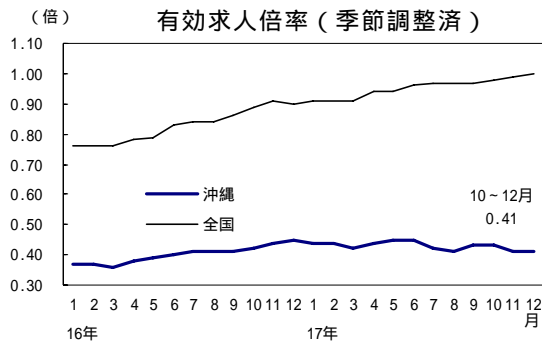


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は上昇している。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

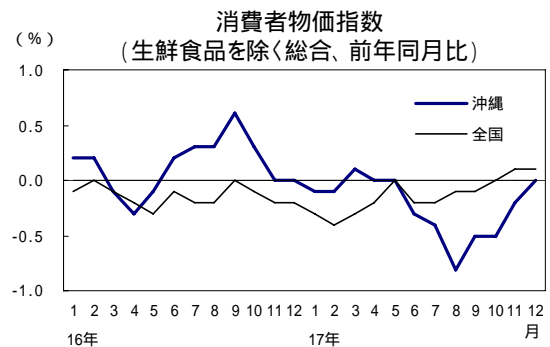
「前年度と比較して、1月に入ってからからの県内の追加採用が増えている。また、県内外共に大学新卒はいろいろな業種での採用増が見込まれる (学校 [大学])」など、「良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	18	22	21	19	6
(前年比)	0.0	10.0	16.0	5.0	20.0
負債総額	70	190	278	36	3
(前年比)	62.1	276.7	209.9	97.5	66.1



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・売上や来客数からすると景気は一見下向きだが、買物の内容は高級志向であり、かなり良い (家電量販店)。

<先行き>

・全体の求人数が依然として好調に推移しており、期待が持てる (人材派遣会社)。

